

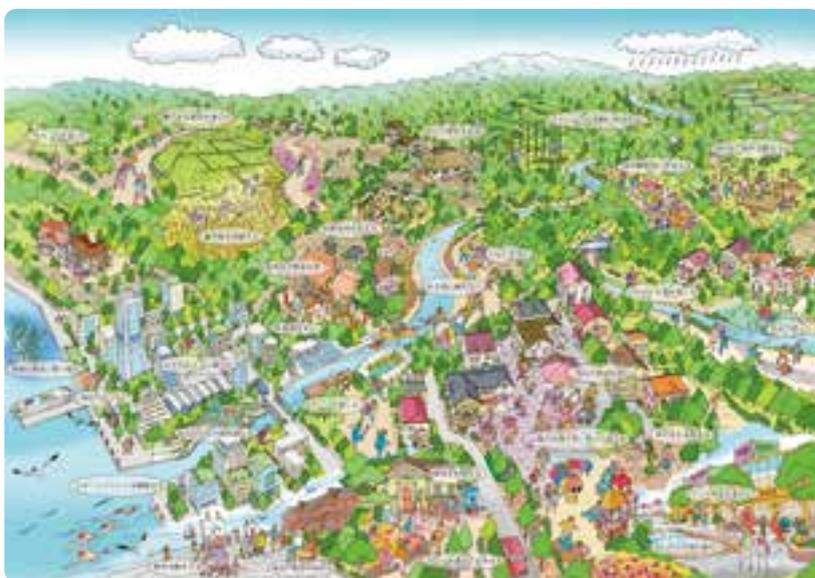
2. 横浜市の緑の取組

横浜市水と緑の基本計画



「横浜市水と緑の基本計画」は、横浜らしい魅力ある水と緑をまもり、つくり、育てるための総合的な長期計画として、2006（平成18）年に策定されました。2016（平成28）年の改定では、水・緑環境と市民生活との関わりのできる「多様なライフスタイルを実現できる水・緑豊かな都市環境」を目標像に掲げています。この目標像を実現するため、「流域ごとの水・緑環境をつくり・高めます」「拠点となる水と緑、特徴ある水と緑をまもり・つくり・育てます」「水と緑の環境を市民とともにつくり・育て・楽しみます」の3つを推進計画とし、水と緑の環境を育む様々な取組を展開しています。

「拠点となる水と緑、特徴ある水と緑をまもり・つくり・育てます」では、郊外部のまとまりのある樹林地や農地などの緑を「緑の10大拠点」として位置付け、優先的に保全・活用し、次世代に継承するとともに、農によるまちの魅力づくりや、水と緑による都心臨海部の魅力づくりを推進しています。



図：水と緑の基本計画の目標像



図：緑の10大拠点

横浜みどりアップ計画



「横浜みどりアップ計画」は、「水と緑の基本計画」の重点的な取組として策定された、緑の減少に歯止めをかけ、「緑豊かなまち横浜」を次世代に継承するための5か年の計画です。2009（平成21）年度からは「横浜みどり税」を財源の一部に活用し、推進しています。

2期目となる2014（平成26）年度からは、計画の理念に「みんなで育む みどり豊かな美しい街 横浜」を掲げ、「柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む」「柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる」「柱3 市民が実感できる緑をつくる」という3つの柱に加え「効果的な広報の展開」に取り組んでいます。

横浜みどりアップ計画[2024-2028]

「横浜みどりアップ計画[2019-2023]」は、2023(令和5)年度末までの計画ですが、緑の保全や創出は長い時間をかけて継続的に取り組むことが必要です。また、計画期間中の社会の変化にも対応しながら、取組の成果を市民の「実感」につなげていくことが求められています。そこで、市では、これまでの取組の成果や課題、市民・土地所有者意識調査の結果などを踏まえ、2024(令和6)年度以降に重点的に取り組む「これからの緑の取組[2024-2028]」の素案をとりまとめました。この素案に対し、広くご意見をいただき、2028(令和10)年度を目標年次とする「横浜みどりアップ計画[2024-2028]」として本冊子を取りまとめました。

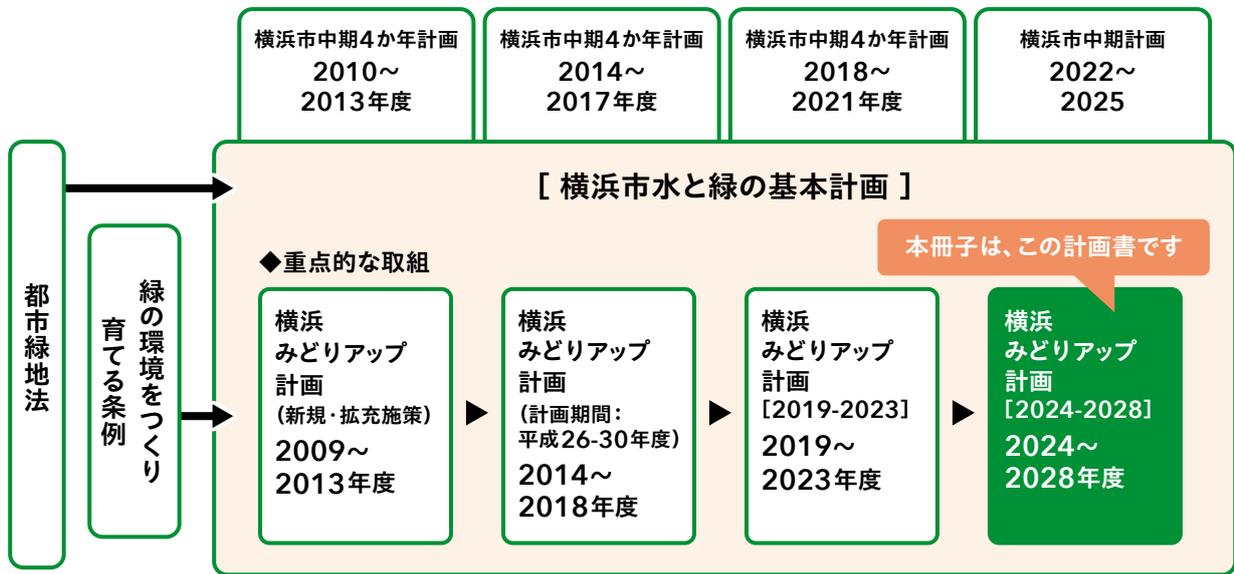


図:「横浜みどりアップ計画[2024-2028]」の位置付け

「横浜みどりアップ計画[2024-2028]」策定の経緯

